

# ポスターセッション

第12回 子ども学会議では51件のポスターが発表された。審査により最優秀賞が1名、優秀賞が5名選ばれ、大会1日目の夕刻から行われたイブニング・セッションで表彰された。



51件のポスターは、甲南女子大学の第一学生会館4階ホールいっばいに2日間にわたって掲示された

【最優秀賞】 仁木 和久：「主体的行為の学習・記憶」とアクティブラーニングとの関係

【優秀賞】 山田 小百合：障害のある子もない子もワークショップ：物語作成ワークショップの実践報告

田部 絢子：発達障害児の「食の困難」と発達支援に関する研究—学校給食調査を通して—

村松 志野：日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか①～ Harter 幼児版 自己認知のアジア比較～

石井 智也：ケニアの知的障害児教育の実態と支援課題—JICA 青年海外協力隊の障害児者支援事業から—

佐藤 優香：博物館の体験型展示における子どもの経験～「マダガスカル霧の森のくらし」展の事例から～

## 第12回子ども学会議 ポスターセッション最優秀賞演題

### 「主体的行為の学習・記憶」とアクティブラーニングとの関係

仁木 和久 (産業技術総合研究所 人間情報研究部門)

知的好奇心を持ち、自ら考え・問題解決に成功した時に、アハ!という感動を伴い、記憶の中核『海馬』で強固な学習・記憶が形成され、これを「主体的行為の学習・記憶」と呼ぶ。この時、眼窩脳領域が意欲や知的好奇心に、扁桃体がポジティブ感情に、ACCやTPJなど人間の社会的活動を支える脳領域も強く関与することを一連のfMRI脳イメージング研究で明らかにした。

さて、教師の「教え込み」教育から、生徒が自ら考え・問題解決を行う「主体的な学び」、「社会でも役立つ学びの力」を特徴とするアクティブラーニング教修への転回が予定されているが、(ゆとり教育のような)教育現場での混乱を避ける必要がある。

本論では、「主体的な学び」やアクティブラーニング教修を統一的な視点で人間の学びの特性を捉え・理解

する理論・モデルとして、「主体的行為の学習・記憶」脳認知モデルを提示する。意欲やポジティブ感情の必要性や、自ら考え、主体的に問題解決することが強い学びを引き起こす理由も説明する。行為の内容により実際のアクティブラーニングには幾つかのタイプが出現するが、全てを同一観点から理解できる。教育で(効率的に正しく)獲得をめざす知識・知能は、人間の社会・文化の中で創造された知識・知能体系(文語、数学、科学、技術、人工物利用、法律、社会システム機構等)であり、教育はその共有の加速場という位置づけを持つ。教室という学びの場では、「主体的な学び者」達がコーディネータの下で協調し、知識・知能の伝達・共創・共有作業が行われるべきであり「社会で役立つ学びの力」の原型がある。

## ポスターセッション

10月10日(土) 17:30~18:30

演題番号	筆頭発表者	タイトル	在席責任時間 奇数番号: 17:30-18:00 偶数番号: 18:00-18:30
1	浅野幹也	保育環境の違いが幼児の運動発達に及ぼす影響	
2	黒澤寿美	保育園児の睡眠時間と日中の運動との関わり ～ココミネス式教育法を取り入れた園の子ども達の事例～	
3	内山有子	幼稚園における運動遊び指導の課題(1) 一幼稚園教諭・幼児体育指導者の実態一	
4	中道直子	幼稚園における運動遊び指導の課題(2) 一幼稚園教諭と幼児体育指導者の指導観の比較一	
5	戸次佳子	小学生の協調運動「線たどり」「はさみ」「縄跳び」「ボールつき」の調査における学年差と男女差	
6	浅野大喜	運動に困難さをもつ子どもの身体イメージと運動能力の関係	
7	綿引清勝	不器用な子どもの運動発達支援に関する研究 一課題志向型アプローチによる投球動作の変化について一	
8	網本さつき	発達性協調運動障害が疑われる症例への理学療法 ～課題へのトップダウン的介入～	
9	三根侑祐	キッズサッカースクールを通じた身体作りの実際 一保護者アンケートからの考察一	
10	赤壁省吾	発達障がいのお子さんのサッカー教室の取り組み ～アンケートから見る保護者のニーズについて～	
11	時本英知	知的・発達障がい児の地域スポーツ活動のあり方 ～サッカー活動を通じた情動共有経験～	
12	中藤広美	靴の装着が足部骨格および歩容の偏倚などを有する子どもに及ぼす影響	
13	大塚朔甫	リトミックにおける子どもの振る舞いの測定と発達の解明	
14	桐山伸也	ダウン症児の音楽コミュニケーションスキル発達支援のための行動特徴の可視化	
15	深町澄子	ダウン症児の音楽活動におけるリズム感受と身体活動の協応性	
16	山田小百合	障害のある子どももワークショップ: 物語作成ワークショップの実践報告	
17	勝田麻津子	育ちが気になる子どもを持つ母親へのペアレントトレーニングの効果	
18	柴田真緒	発達障害の本人・当事者からみた睡眠の困難と支援に関する研究	
19	田部絢子	発達障害児の「食の困難」と発達支援に関する研究 一学校給食調査を通して一	
20	神長 涼	発達障害青年の社会的自立における困難と求める支援 一ある当事者の振り返りを通して一	
21	内藤千尋	矯正教育機関における発達障害等を有する非行少年の実態と地域移行支援の課題	
22	橋本美恵子	現代社会における子育て支援のあり方について	
23	河田承子	初産婦の不安の要因と支援方法の検討	
24	石川翔吾	高齢者と子どものかかわりを促す地域包括ケアの事例検討	
25	佐藤朝美	園児向けITを活用した教育カリキュラム「こどもモード KitS」実践の効果検証	
26	所 真里子	子どもの安全を推進する社会システムを検討する ～ISO/JIS、子どもの人権とビジネス原則を事例に～	
27	土居裕和	木炭塗料に負電圧を印加した室内環境が子どもの認知機能に与える影響性について	
28	大橋さつき	絵本を活用した親子ムーブメント 一発達障がい児支援と被災地支援における実践から一	
29	持田隆平	福島原発被災者の避難意識における世帯分離の影響 一子どもの在否に注目して一	
30	八木俊介	ボランティアの記述記録のコード化による遺児の「情動・行動」の考察	
31	能田 昂	近代日本における災害救済と障害児教育保護成立の歴史的位相	
32	村松志野	日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか① ～ Harter 幼児版 自己認知のアジア比較～	
33	眞築城和美	日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか② ～ Harter 幼児版: ツールの構造検討～	
34	松本聡子	日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか③ ～ Harter 幼児版: 親子の得点比較～	
35	菅原ますみ	日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか④ ～幼児の自己有能感および自尊感情の規定要因～	
36	仁木和久	「主体的行為の学習・記憶」とアクティブラーニングとの関係	
37	池口和奏	自然学校・自然体験活動のねらいと児童の変容 一活動の観察を通して一	
38	石渡正志	小学校における『星の学習』の授業開発	
39	後藤由佳	短期大学における保育者養成課程の教育実践 一保育表現技術の授業を事例として一	
40	古田康生	ジュニア期の体育指導者を志望する学生の指導に関する気づき	
41	高橋美咲	学生による子どもの生活調査による気づきの内容	
42	甲斐 愛	発達障害をもつ子どもの特徴をとらえた伝え方の検討	
43	木村美知代	子育て支援ボランティア体験で学ぶ力が形成される要因を探る	
44	荻原康子	看護系大学生の子どもの頃の「なりたい職業」回想録の一考察	
45	築山依果	大学生における生活習慣と学校適応の関連性(第1報) ～食意識を中心に～	
46	三木澄代	大学生における生活習慣と学校適応の関連性(第2報) ～心身の健康からみて～	
47	山内美智子	管理栄養士養成課程における効果的な教育方法の検討 ～1年次と4年次との比較～	
48	杉尾直子	管理栄養士養成課程大学1年生とスポーツをする高校生における食生活の実態の比較	
49	木村志緒	高校生スポーツ選手の食生活における性差の検討～より効果的な栄養教育を行うために～	
50	石井智也	ケニアの知的障害児教育の実態と支援課題 一JICA 青年海外協力隊の障害児者支援事業から一	
51	佐藤優香	博物館の体験型展示における子どもの経験 ～「マダガスカル霧の森のくらし」展の事例から～	

\* 2015年10月に開催された「第12回 子ども学会議」で配布した『プログラム・抄録集』で東京学芸大学の高橋智先生のお名前が間違えておりました。訂正してお詫言いたします。